鴨居から江川せせらぎ緑道を訪れる　　2018.4.4　　秋山

鴨居駅 9:30～鴨居の桜～鶴見川～川向橋～川向稲荷神社～山崎パン工場～江川せせらぎ緑道～淡島神社～イケア解散

散策コースの地図

JR 鴨居駅

昭和 35 年前後から都筑区の川向町、池辺町、佐江戸町にかけて横浜市が工場を誘致しました。

地元では横浜線が明治 41年に開通して以来、4Km 離れた小机駅か、3,5Km 離れた中山駅まで歩かないと鉄道利用ができなかったことと、道路も現在と違って曲がりくねっていたので、沿線の人々は「鴨居に駅があったら便利だ、駅が欲しい」との悲願を抱え、言い伝えてきました。

昭和 37 年 12 月 25 日竣工式を迎えた鴨

昭和 20 代の後半、軍隊から復員して間もない青年たちが、会合あいまに「鴨居にも駅を作ろう」と提案しました。これが鴨居駅建設の発端です。

昭和 30 年頃、町内一丸となって駅の建設運動の取り組みを開始しました。しかし当時の町内会長が土地を

売却する方法を提案したところ、地権者の反対にあい建設は一旦頓挫しました。その後、改めて鴨居の人たちは、何としてでも駅を作るという強い意思をもち、昭和 33 年頃、鴨居駅設置委員会を組織しました。一度頓挫したものを、再び盛り返すのは非常に困難をともないます。会合を重ね反対派の説得や建設費の捻出する方法の検討、関係する方面への交渉が続きました。

地元請願駅として当時 3,000 万円かかる建設費を、地元で負担することになりました。当時の鴨居は、農家が 85 から 86 戸、サラリーマン（戦争中に疎開し、そのまま住み着いた人）が、70 から 80 戸、計 150 から 160 戸の町でした。鴨居駅設置委員会は費用の捻出方法について協議を重ね、農家は各自の土地所有面積に照らし、ある程度の土地、畑、山林を問わず各自の意思に基づいて所有地を無償提供し、これを横浜市土地供給公社に買い取ってもらい、その費用にあてました。サラリーマンの方々には、各自の判断による応分の寄付をお願いしました。昭和37年春に起工式を行い、同年 12 月に完成しました。

鴨池人道橋と鴨池大橋

昭和 32 年頃、池辺町に日本電気と松下通信工業の工場建設が始まりました。鴨居駅から鶴見川を渡って、この建築現場の現場に行くために、この2社が経費を負担して、初代鴨池人道橋が作られました。

当時は幅3m の木造の橋でした。その後、年々通行する人も増え、また、橋も傷んできたため、平成3年に新しい鴨池大橋が完成しました。鴨池人道橋のすぐ上流が鴨池大橋です。

鴨池人道橋

鴨居の桜

地域に親しまれるようになった鴨居堤の 19 本の桜は、植樹当時の様子を知っている人々から「19 本桜」と呼ばれていました。また緑区制 30 周年念事業の一環として 2001年に 90 本の桜が移植されました。その桜も 18 年がたち、鶴見川の土手を彩るようになりました。その後、桜の名所になり、のびのびと枝を広げる見事な桜は、ワシントンのポトマック河畔の里帰り桜です。横浜の外人墓地に眠るシドモアさんのエピソードを伝えるため、2001 年に市民ボランティアが接ぎ木により育てました

鶴見川の堤の桜

対岸の都筑区から見た鴨居の桜

鶴見川

鶴見川は、その源を東京都町田市上小山田の標高 170m の谷戸群の一角に発し、多摩丘陵と下末吉台地を東に流れ、沖積低地の入口付近で恩田川と合流、その後は流れが緩やかになり早渕川、矢上川などを合わせて東京湾に注いでいる一級河川です。

鶴見川は氾濫の繰り返しにより「暴れ川」の異名をもち、流域住民は絶えず苦しめられました。しかし住民は、氾濫の歴史の中で、生産物や生活物資を舟で運ぶ水運として鶴見川を利用してきました。

近世に流域の村々では、年貢米の輸送に鶴見川を利用していました。鶴見川には、末吉河岸、小机河岸、川向村の川向河岸がそれぞれ設けられていました。年貢米は川向河岸より船積し、鶴見川を下って海上輸送しました。

鶴見川の洪水

また鶴見川と早渕川の合流点に船着き場がありました。この船着き場から竹ぼうき、ぞうりなど日用品を積み込み、鶴見や生麦方面で売りさばきました。こうした物資を運ぶ風景は、昭和 13 年頃まで見られたといいます。

中川、勝田、荏田では竹林が広がり、タケノコの産地として知られていました。また農家にケヤキの大木があり、これらの竹やケヤキの枝は、明治、大正時代に大森や品川の魚師町に海苔採取用のヒビとして売られました。これらの枝も鶴見川を筏流しで運びました。

江川せせらぎ緑道

緑産業道路の南、東方町と川向町を東西に流れる江川は、水田の灌漑用水路として、昭和 40 年頃まで重要な役割を果たしていました。ところが第三京浜道路や緑産業道路が整備されて工場が進出し、周辺の都市化が急激に進んだ結果、江川は農業用水としての役目を終え、荒廃してしまいました。しかし、平成8年に都筑水再処理センターの高度処理水が流れ、鯉や鮒などが泳ぐ水路となり。両側に遊歩道が整備され、現在は江川せせらぎ緑道の名で、美しい親水施設として注目されています。

下流部の東方町では「都田江川せせらぎ愛護会」が昭和 60 年頃、横浜市に働きかけ水路の両側にソメイヨシノを植えました。愛護会は約 50 人が中心になって花の世話や清掃活動を続けています。季節が春になると、およそ 200 本の桜とチューリップが咲き、桜の名所として知られています。

満開の桜とチューリップ

江川せせらぎ緑道

淡島神社

本社は和歌山県加太にある淡島神社で、祭神は少彦名命（すくなひこなのみこと）と神功皇后の女神となっています。江戸後期から明治にかけて、女人信仰の神として崇敬され栄えました。村の生活の束縛から離れたい願い、念仏講を中心とした女性同士のレクリエーションへの欲求が、天保年間（1830～1843）に淡島信仰を全国に広げる活動と結びついて流行したようです。3月3日の大祭には品川の芸者数が列を成して参拝し、大いに賑わったと伝えられています。その模様は「江戸名所図会」に紹介されています。針供養塔や折本の洪水の悩みを解消した土地改良の記念碑、村人が祭日などに力自慢を競い合いあった力石などがあります。

淡島神社のお祭り

淡島神社の神輿を潜る女の子

イケヤ（IKEA）

スウェーデン発祥でヨーロッパ・北米・アジア・オセアニアなど、世界に出店している世界最大の家具販売店です。日本では9店舗。低価格、デザインの良さ、アフターサービス面のよさなどで、家具といったらイケアというほど、世界に浸透しています。IKEA の由来は、創立者イングヴァル・カンプラート Ingver Kamprad のイニシャルに、彼が育てた Elmtaryd 農場と Agunnaryd 町の頭文字をつなぎ合わせたものです。日本語、スウェーデン語、ドイツ語などでは「イケア」と発音されますが、英語では「アイケア」と発音されます。

参考資料

「鶴見川白書」　鶴見川を考えよう

緑区史　通史編　緑区市編集委員会

図説 鶴見川　横浜開港資料館